

策定プロセス訪問調査事例

北海道三笠市

母子保健計画策定プロセスに関する調査について

保健所の関与

[I] 事例の概要

- ・保健所担当保健婦と市保健婦が、定例の連絡会議を毎月開催している。
- ・保健所の保健婦係長と保健所担当保健婦、市の健康係長と市保健婦全員で業務検討会議を年1～2回開催している。

[II] 計画策定の準備

- ・保健所主催の管内保健婦研修会で、母子保健計画策定に反映できるよう、次のテーマで3回企画実施した。
 - ①「保健活動を効果的に進めるための計画と評価のあり方」(H7年5月19日実施)
 - ②「育児支援のあり方～個から集団支援～」(H8年2月16日実施)
この研修会に向けて、管内全市町村で“育児支援に関する住民ニーズ調査”を実施した。
 - ③「母子保健計画策定のあり方」～母子保健計画策定に従事した妹背牛町の保健婦を講師に開催(H8年10月25日実施)

(2) 三笠市母子保健事業推進検討小委員会役員・委員名簿（案）

役員

職名	氏名	機関区分	備考
委員長	續博	医療機関	三笠市医師会会長
副委員長	松川忠夫	医療機関	三笠市医師会副会長

委員

職名	氏名	機関区分	備考
委員	近藤文衛	医療機関	三笠市医師会副会長
委員	三山隆司	医療機関	三笠市医師会理事
委員	今稔	医療機関	歯科医師会三笠方面会長
委員	山田勝次	行政機関	三笠市総務福祉部長
委員	坂野義靖	行政機関	三笠市福祉事務所長

母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名 (北海道三笠市)

記載担当者名 (都筑千景・工藤祐子)

	市 町 村		保健所の関与
	市町村行政内部の作業	住 民 参 加	
<p>【Ⅰ】事例の概要</p> <p>◆事例検討に当たって理解しておくべき背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口、地理的条件、社会資源等 ・市町村の組織体性等 ・住民組織の成熟度等 <p>◆県の取り組みと保健所の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口15,016人(8年度末)、盆地状の旧産炭地都市で若者が流出。若者の定住対策と少子対策が課題となっている。 ・過疎化のため、母親や子供同士が触れ合う機会が少なく、育児の孤立化となっている。 ・住民の地区(7地区)意識が強い。(炭坑時代のなごり。地区もまとまり、エゴが強い) ・炭坑を中心に町がひらかれたため、川ぞいの細長い地形に住民が主に居住しており、「ウナギの寝床」とも呼ばれている。 ・市の面積302km²の約98%が森林地帯。 ・管内の保健婦研修会で、道内で既に母子保健計画を策定していた妹背牛町の保健婦を招いて勉強会を平成8年10月に実施。(ニーズの把握の仕方、支援のあり方について) ・平成8年4月企画課、土木課を経た次長がふれあい健康センター次長に就任。次長の前任者がまちづくりに意欲的だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所の三笠担当の保健婦と、市町村保健婦で月1回の定例の連絡会議、年1-2回係長も含めた業務検討会を実施していた。 ・母子保健計画策定の準備として、保健所主催で住民ニーズ調査、勉強会等を3回企画実施した。
<p>【Ⅱ】計画策定の準備</p> <p>◆計画策定の目的、策定の手法等の合意形成</p> <p>①合意形成のキーマン</p> <p>②範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首長、財政、他課、議会、住民組織、医師会等 <p>③合意形成の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別調整、会議、研修・勉強会等 <p>④策定体制の有無、構成、運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次長がチーフとなって、係(ワーキング)の打ち合わせ(開催2回) <p>計画実施のシナリオ等の検討</p> <p>庁内関係課による協議会の設置(福祉事務所、保育所、教育委員会(学校教育課、生涯学習課、障害体育課)、市立病院、ふれあい健康センター)</p> <p>各課の意向調査、市民の意向調査、計画策定作業等の協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内の協議会での各課の調査については、徹底的に回答をもらうようにした。庁内では、現在三笠市では少子化が進行し、子育て支援をしていかねばならないという共通の思いがあり、比較的合意形成はスムーズにいった。 <p>【課題、問題点、苦労したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画策定期間が短かった。(通知から1年、稼働は8年9月頃から) ・日程等の関係でアンケート調査項目の絞り出しが大変だった(具体的に細かいところまでの検討は出来なかった)。 ・アンケートの手法についてもう少し考慮しても良かったが、今回はたくさん意見をもらえるような形を優先した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な関わりはなし 	
<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算 ・人的体制 ・時間の確保 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・人員、時間外勤務手当ともに、既存の中で対応(担当者が意欲的であった)。 		

<p>【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握</p> <p>①地域の実態、住民ニーズ把握の視点の整理と共有化</p> <p>・キーマン、範囲、手法 検討体制 (【Ⅱ】と同様)</p> <p>②具体の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存資料の活用 ・住民等との対話 ・アンケート調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングで次長がキーマンとなって調査方法等について検討(全てにおいて次長が参加し、「徹底的な議論」を繰り返し行った)。 ・庁内関係課連絡協議会において計画策定に必要な情報・作業を依頼 <p>健康センター内では、次長と保健婦で住民へのアンケート調査の質問項目づくりのため、またその方法について徹底的に議論した。保健婦が活動の中で今までに得た情報も盛り込むようにした。できた項目から協議会にかけ、回答をもらってさらに吟味することをくり返した。これによって、しなければならないことが少しずつ見えてきた。アンケートに対しては「しっかりアンケートをやろう」、「アンケートに対して全ての内容に答えていこう」、「具体的なことを盛り込もう」という意識を係全員が持っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによる意向調査を実施(対象・0～6歳児の母親) ・アンケート結果による各課の対応対策等について依頼 <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい健康センターのトップが、総務福祉部長であり、予算面への配慮が少し可能だった。 ・庁内各課においては、仕事量の増加については理解してもらうよう努め、長期に渡るものや費用のかかるものは財政的に難しいが、「できることは全部やろう」という意識で合意形成ができた。 ・アンケートの分析は次長と保健婦が中心になって実施。母親の意見を全て採り入れるつもりで、かなりの議論をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによる参加(0～6歳児の母親) ・回答率は44.5% ・予想では20～25%だった 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定について市に説明を行った。 ・具体的な関わりはなかった。関わりの必要性は感じたが、保健所の機構改革の予定もあり、時間的に困難であった。 ・保健婦間で振り返りのため、妊婦保健婦連絡会で数回話し合いをした。(策定に直接的なものではない)
<p>【Ⅳ】計画(施策)化</p> <p>①具体の対応方策に関する検討協議と関係者の合意形成</p> <p>②内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体の目標、数値目標 ・評価指標 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングで次長が中心になって計画原案を作成。 ・保健・医療・福祉総合サービス推進会議において、情報交換事項として、策定について説明。 ・庁内関係課連絡協議会で原案協議。 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで、庁内の各課に関するものは全て返し、対応や数値目標を各課毎に検討してもらうよう依頼。合意形成ができていたので、全て回収できた。 <ul style="list-style-type: none"> ・「子育て支援」を重点目標とし、計画は平成9年度～13年度までの5カ年計画で、三笠市総合計画に沿った各課の事業実施により、「こどもに優しいまちづくり」とした。(これらは全てアンケートをもとにした) 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療問題協議会(メンバー医師7名、歯科医師1名、薬剤師1名、有識者5名、行政機関6名、計20名)で計画原案協議。(協議の1週間前に原案を事前に配布し、意見をもらうようにした。) <ul style="list-style-type: none"> ・医療問題協議会は、市の有力者、住民団体の代表者が集まっていた、かなり力のある会である。この会での決定事項は庁内では説得力のあるものになる。 ・医療問題協議会に母子保健事業推進検討小委員会が、今回の計画策定を契機として設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療問題協議会のメンバーに保健所長がなっており、計画原案協議に参加している。 ・保健婦の関わりは特になし。

<p>【V】計画の具体化 ・9年度予算への反映</p> <p>・計画の進行管理 組織体制</p> <p>・住民、関係機関への周知等</p>	<p>・計画に基づき、各課で予算請求。(実際には、当初予算策定後、計画策定)</p> <p>・実際はあまり予算のかかるものはなかったが、今回の策定分は全てOKだった。</p> <p>・毎年度進行状況を医療問題協議会で報告。(今年度は平成10年3月予定)</p> <p>・計画書の整理は中間8月と1月にチェック。3月の協議会にかけ、新たなものを作成する予定。</p> <p>・計画書に関係機関、アンケートに答えていただいた方、妊婦に配布。(妊娠届提出時、検診時に、保健婦が一言添えながら配布した。)</p>	<p>・意見はまだ具体的 に上がってきていない。現在整理中。</p>	<p>・保健所長が医療問題協議会に参加して、計画策定の報告を受ける。</p> <p>・保健婦は健診のマンパワーとして、以前と変わらず支援している。</p>
<p>【VI】全体を通じた事例のまとめ (キーワードも記入)</p>	<p>・アンケートに答えていただいた方々の意見・要望に対して、全てを回答する意識で計画を策定した。</p> <p>・今回の策定のキーマンは次長であり、全ての会議、ワーキングに参加して保健婦と共に検討を重ねたことが、促進要因であると思われる。</p> <p>・計画を策定した段階で終わりにせず、既に2回チェックを行い、来年度にバージョンアップを行う予定を立てている、またその合意形成が出来ている。</p> <p>・財政的にやっていけるのか不安。(2-3年後には、市自体が赤字債権団体になる可能性がある)</p> <p>・子どもがどんどん減ってきて、また生まれなため、母親からの反応は低下している。全体的なパワーが感じられない。</p> <p>・計画は納得のいくものというより、期日に仕上げるため「一生懸命、がむしゃらに」取り組んだ結果、という感想が聞かれた。</p> <p>・計画策定により、しっかり議論するいいきっかけができた。</p> <p>・保健婦に対するシビアな意見があり、それに気づけた。</p> <p>・これからは学校教育と一貫して行かねばならないと思っている。(市の教育長は「子どもがお腹にいるときから見守っていく」という意見を持っている)</p> <p>・国や県には、切に財政的な支援を希望する。(マンパワーはそこそこある)</p> <p>・保健所の反省として、直接的に関わるような体制が取れなかったのは残念だが、具体的な計画であり、大変良くできていると思う。見直しの検討には是非参加していきたい、という思いを持っていた。</p>		

